

自治体名	埼玉県 旧大利根町(現加須市)
------	-----------------

女性の健康づくり対策の概要

町民の健康維持増進していく施策については、これまで健康増進事業として、毎年町民健康講座を開催、がん予防講座やストレス発散の運動講座などを実施、好評を得てきた。また、保健センターで何回かシリーズとして生活習慣病予防のための健康教室を開催したり、生涯教育の女性講座やいきがいセミナー、学校教育等、いろいろな機会をとらえて、生活習慣病予防や健康についての啓発に取り組んでいる。

女性の健康づくりという観点からいうと、子宮がんや乳がんの女性特有のがん予防として検診の充実や、養護教諭と協力し若い年齢層の保護者へのがん検診の必要性を周知することを行った。愛育会員や食改会員への健康啓発も実施、検診受診の声かけをしてもらったり、がん予防の食事を町民に伝えてもらったり、草の根的に実施している。

今後もポピュレーションアプローチとして、いろいろな機会をとらえて政策的に健康教育していくことは重要であり、努めていきたい。

自治体の特徴

- ・人口約 15,000 人、年間出生数 0 人前後、高齢化率 22% の少子高齢化の町である。
- ・埼玉県の東北部に位置し、北を利根川が流れ、加須市・栗橋町に隣接している。最寄駅は JR 宇都宮線 栗橋駅、東部日光線栗橋駅、及び東部伊勢崎線花崎駅である。
- ・主な産業は米やイチゴを中心とする一次産業と工業団地を中心とする第 2 次産業であり、水と緑の豊かな地域である。七夕様や野菊の作曲家である下総院一先生生誕の地として「童謡のふる里づくり」“あつたか子育てやさしい老後”の町づくりを進めてきたが、22 年度合併予定、加須市となる。

人口構成 (H21. 4. 1 現在)

人	総数	男	女
割合(%)	100	49.6	50.4

15歳未満	1,761	931	830
15～64歳	9,719	4,996	4,723
65歳以上	3,251	1,378	1,873
75歳以上	1,582	553	1,029
85歳以上	445	116	329

女性に関する健康課題

平成 15 年～19 年の標準化死亡比 (SMR) が 122.8 と、全国からみて高かった。

そこで、平成 16 年～21 年 6 月までの死亡個票を調べた結果、65 歳未満の女性の死亡率でみると、1 位が悪性新生物、2 位が自殺であり、1 位のがんの中でも、特に乳がんによる死亡が高いことがわかった。

大利根町の乳がん検診率は 13.7% 子宮がん検診率 11.8% と低く、予防の観点から女性特有のがんの検診率向上が課題である。今まで乳がんや子宮がんの予防講座を実施してきたが、参加者は 40 歳以上がほとんどであり、そのため女性が特に若い世代の年齢層が自分の健康、体を大切にしていくような健康教育は重要であると考える。

事業費 (千円)

(1) 女性の健康づくりに関する事業 (総額)

337.5

(2) 報告事業 (再掲)

様式 3

事業名	大利根女性の健康力アップ事業				
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 健康教育	<input type="checkbox"/> 健康手帳の交付	<input type="checkbox"/> 健康相談	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の普及	<input checked="" type="checkbox"/> 啓発普及
事業費（千円）	337.5				

事業目的

40歳代からの生活習慣病予防ではなく、30歳代からの生活習慣病予防の意識を持つきっかけを作ることで、健康への関心度を高める。若い年齢層に健康講座を開催することで、乳がん検診の必要性を伝え、乳がん予防については自己検診の実施ができるような行動変容を目指す。

事業対象

健康講座の対象者：若年層から中高年層、特に30歳代～40歳代の子育て世代の女性を中心

事業実施体制・展開

- ① 地区診断の一つとして、死亡個票や既存資料等から町の女性の健康課題について分析し、それを反映した健康講座を開催する（健康課題分析の結果は、様式2を参照。65歳未満の女性の死亡で乳がんによる死亡率が高い）
- ② 健康講座開催にあたり、町母子愛育会を協力団体として、実行委員会を立ち上げる。
- ③ 対象となる年齢層の子育てサークルの父母たちとの話し合いをし、参加しやすい環境づくりを考える。
父と子の育児事業並行開催ですすめるが、実施不可能となり取りやめる。保育の必要性あり愛育会が協力。
- ④ 健康講座の計画・実施：2月7日（土）10時～12時 「女性の健康講座」開催
「大利根女性の健康についての提案」保健師 町の健康課題と乳がん予防及び乳がんの自己検診の実施
「気持ちよく体のメンテナンス～腰痛・肩こり予防・ウエストラインをすっきりと」
みのわあい先生（デューク更家公認ウォーキングスタイルリスト）
定員 30名 当日保育有り（母子愛育会担当）
- ⑤ 30歳代の参加を促すため、30歳代の対象者1020人に、講座のお知らせと子宮がん・乳がん検診のすすめ文書を郵送し、周知を図る。また幼児健診の場や子育てサークル活動日、子育て支援センター、愛育会の子育て支援日など、機会をとらえてPRする。愛育会が、母親たちに声かけする。
- ⑥ 人に話すことで知識・関心の定着を図るため、当日参加しない女性3人にブレストケアシャワーカードを渡し、伝達してもらう。
- ⑦ アンケート2回（当日及び2～3週間後） 繼続性等の評価をする。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 健康講座参加率の低い30～40歳代が参加しやすい環境づくりを図る。
保育の利用あり 8人（全員保育なければ参加不可能だった） 30歳代全員 町健康教室参加は初めて。
30～40歳代の参加率 76% 通知による30歳代の参加 15人 広報による参加〇 通知・声かけの有効性大
- ② 乳がん予防の大切さを知り「乳房の自己検診」を継続、自分の健康、体に关心を持つ。
当日アンケートによる実施率（100%） 自宅でやってみようと思う率（96.6%） アンケート感想「検診の大切さがわかった」「簡単だからやってみようと思った」等
- ③ 乳房の自己検診継続させる：事後アンケートにて 自宅での実施率 73.7%
- ④ 関心を高めるため、参加しなかった人への伝達をする（自分の意識定着と知識の広がり） 事後アンケートにて
伝えた人の割合 73.7% 何人の人に伝えたか 合計23人（1人につき平均1.64人）
- ⑥ 運動の楽しさを知り、自宅で継続できるようにする：自宅でやるという回答 97% 自宅で実施した率 84.2%

事業の工夫点

健康課題を明確化し、若い年齢層に来てもらうため、ターゲットに直接働きかける様々な方法（郵送による個別通知、児童健診や子育てサークルの場などの話等）の工夫や広報掲載だけでなく、郵送の後の口コミが重要なことがわかった。講座内容について乳がんの話では集まらないので、女性の抱える健康問題解決のための魅力ある内容、講師選択を工夫した。継続を図るための工夫で、参加しない人に話すためのおみやげや資料を渡すことはよかったです。

事業の効果についての評価・考察

- ① 30歳代の参加者は町の健康事業に初めて参加し、とても喜ばれ、次回も参加したいと感想を寄せている。30歳代へのアプローチは難しい。でも参加者の学びは、それなりに有効であり、今後も工夫し継続したい。
- ② 講座の周知について、広報ではなく、対象者の目に届くよういろいろな機会をとらえての工夫、プラスロコミは有効であり、いろいろな形で周知する必要性がある。
- ③ 講座内容について、アンケートでの感想から参加者の満足度は高く、健康や体への気づき、関心を示していた。乳房の自己検診や運動の継続性について目標値は達成した。ブレストケアカードをお土産として渡して他の人に渡す方法は、全員ができたわけではないが、約50人の人に伝わったことになり、話すことで復習にもなり、効果としては有効、今後の活動に役立てたい。
- ④ 乳房の自己検診、運動の継続性については、実施している人の割合が高く、評価できる。乳房の自己検診の資料は渡せたが、運動の資料が先生からもらえないかったため、「やり方を忘れてしまった」とか「覚えている1つ2つをやっている」等、継続性に影響がでていた。ビデオにとったものを資料としてまとめる作業は時間がかかるが、必要なのだろう。しかし実際問題として、そこまでやって、どこまで活用してくれるのか疑問である。
- ⑤ 地区組織の母子愛育会が協力して実施したことは有意義であった。自分たちの活動（子育て支援事業等）が役立っていることを実感できた。

今後の課題

他の団体を巻き込んだ形ができれば、もう少し広がりが持てるであろう。楽しく、自分の体にいいことが実感できた今回の講座は、今後も期待されている。継続できればよい。何を伝えたいか、明確にできたことは、焦点がずれないと良かった。乳がん予防だけでなく、メンタルヘルスや高血圧、糖尿病予防も大切な健康課題として取り組みたい。

ホームページ			
照会先	埼玉県大利根町保健センター	電話	0480-72-5799
	22年度～	加須市大利根保健センター	電話
			〃

事業評価 (自己評価)		
①活動内容	5	健康課題を明確にし、ターゲットを絞ったのは良かった。参加者数は少ないが、そこで終わらない工夫をとる
②独創性	4	目標を明確にし必要な年に参加しない年齢層にいろいろ工夫してアプローチした。住民団体との協力で企画運営
③普遍性	3	少ない予算での小さな町での取組である。
④将来性	3.5	予算が取れれば、このような形がもっと多くの人に普及できる。乳がん自己検診だけでも普及していく方法もあり
⑤効果度	4	自己検診、運動の継続率高く、効果あり。これをキープできるような機会をつくれば、さらに効果は大きい。
⑥信頼度	4	2度のアンケート結果をとった。

